

# 非財務情報の必要性

2018/3/1 高市幸男

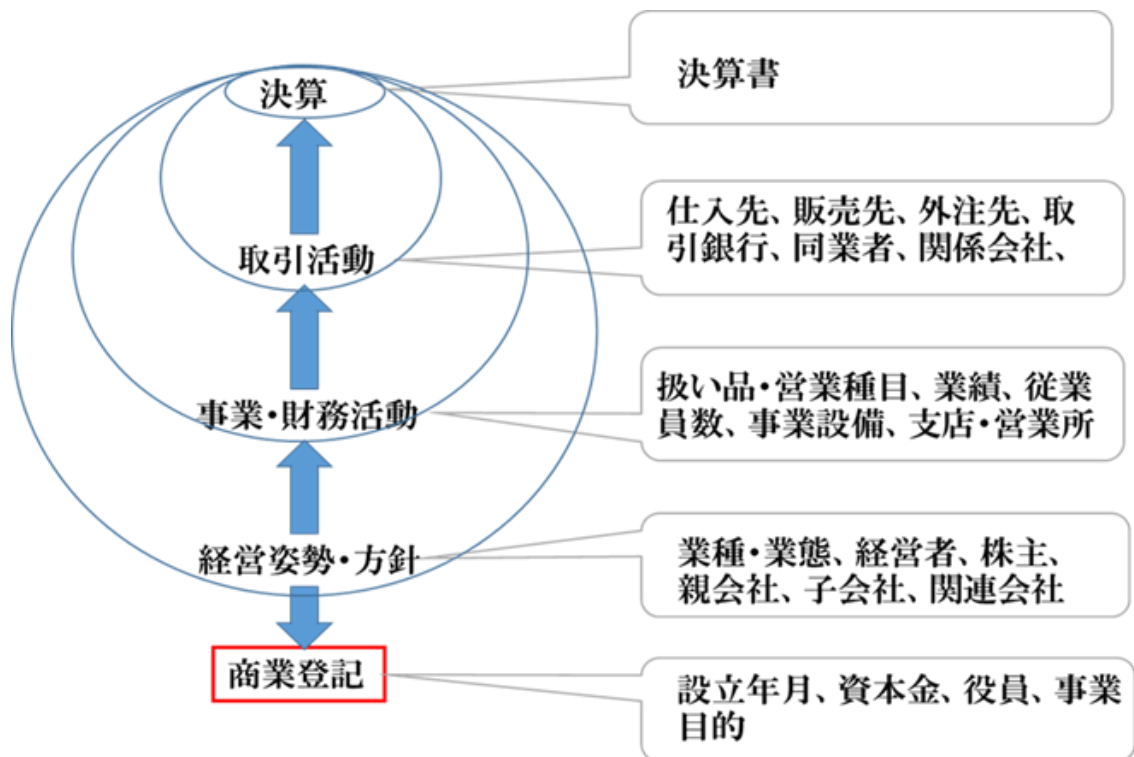
企業の信用度やリスクの評価において、決算書の財務分析が大きな比重を占めている。しかし決算書分析で分かるのは決算時点の財務内容と過去の財務内容、その増減・変化でしかない。仮に異常値を見出し粉飾が疑われても、取引・事業・財務活動など非財務情報との比較・分析・検証なくして判断する事は困難である。何故なら、粉飾決算とは決算数値と取引・事業・財務活動とのギャップだからである。よって、非財務情報の必要性が認識される場所である。他に、決算未達の企業や、決算書非公開の中小企業を評価するには、非財務情報で判断するしかない。ここで改めて非財務情報の必要性を確認してみたい。

会社を倒産に至らしめる原因の70%程度が経営者の性格にある（出典：窪田千貫「自分のできる信用調査と与信管理」日経新聞社）との意見もあるように、取引・事業・財務活動の根源は経営者の資質、性格、経営姿勢・方針にあり、リスク発生の原因は経営者の資質、性格、経営姿勢・方針に内在し、それは特に中小企業に顕著である。また、反社会的勢力や悪徳・詐欺会社のリスクを評価するのに、決算書を入手・分析する意味および必要性、効果は全くない。商業登記や経営者の資質、性格、経営姿勢、経営方針の分析だけで分かることが多々ある。

次の図は、企業活動と企業活動によって発生する経営情報の関係を示したものである。経営者の性格や能力、姿勢によって経営方針および計画が生まれ、経営方針・計画を元に事業活動および財務活動、取引活動を行い、それら活動の成果は決算書で表現される。経営方針・計画及び3つの活動、決算書のそれぞれは経営内容を表す情報を発している。経営情報を評価することによって「危ない会社」を判別することができる。換言すれば、リスクを発生させる経営内容を直接監視する事はできないが、経営内容と関係の強い観察可能な経営情報をシグナルとして利用すれば、リスクの発見・評価ができる。

筆者はシグナリング仮説を支持するものである。

よって、リスクの把握・評価において入手すべき企業情報は、決算書などの財務情報だけでなく、取引・事業・財務活動を表す非財務情報が絶対必要なのは改めて言うまでもない事なのである。



出典：高市幸男

以上